

熊野ロータリークラブ初の米山奨学生との1年

2019-20年度 熊野ロータリークラブ
米山記念奨学委員会 川原 直美

熊野ロータリークラブでは、創立以来米山奨学生の受け入れをしてきませんでした。理由は主に以下の3つ。

- ①地元で大学等の教育機関がない。
- ②辺境の地であるがゆえに、奨学生の往復の負担が大きい。
- ③熊野に来てみようという奨学生がいない。 などでした。

そんな中、創立47年目の今年初めての米山奨学生を受け入れることになりました。2020年の10月号の「友」縦書きページのトップにも紹介されていました三重大学の地域イノベーション学科、曹惊龍君はそこで疲弊した地方の再生をめざしています。

- ① は仕方ないとしても、③を望む学生がいるとは、驚きました。
- ②の交通費などの問題も地区の米山奨学委員会に尽力していただき、曹君の負担を減らすことが出来ました。クラブでは、それでも反対意見がほとんどでした。学生が気の毒だという理由です。

現在の地区の米山奨学委員長の村瀬さんは、どこのクラブも一度は奨学生を受け入れてほしいというお気持ちで、そのことを訴え続けてこられました。

私は、熊野クラブまで行こうという学生がいるとは当時は思えませんでした。お受けして本当に良かったと思っています。素晴らしい機会を与えていただいたと、感謝しています。曹君の聡明さ、素直さ、まじめさ、明るさ、そして思いやり、どこをとっても自慢の息子にしたいような若者です。

ご両親ご家族の愛情一杯に育ってきたことがよくわかります。

【今年度、曹さんとの、かわりについて】

4月：名古屋で初めての対面。とても初対面とは思えず、会話が弾み今後が楽しみになりました。

5月：例会に初出席。例会終了後、(次の特急列車の発車迄4時間20分もあるため)自分自身がAG訪問で松阪迄出かける予定だったので、ついでに津まで車で送って行きました。その折、車の中で私が現在取り組み中の『「熊野市のプロモーションビデオ」の多言語化』について話をしましたところ、曹君が中国語版の協力を申し出てくれました。そして、学業の合間を縫ってさっそく翻訳作業に取り掛かってくれました。

6月：例会出席後、出発までに時間がありましたので急遽、曹君が翻訳してくれた中国語での熊野市の案内DVDの録音作業を4時間くらいかけて音楽スタジオで行いま

した。曹君は、録音に当たっても、とても慎重にそして丁寧に作業に当たってくれました。熱のこもった仕事ぶりに感心させられました。駅に送っていったときには、汽車の発車3分前でした。慌てましたがおかげさまで、中国人の観光客の方々に向けたPVを完成させることが出来ました。感謝です。

7月:例会に、曹君と担当教授の朴恵淑先生が出席してくれました。先生が急遽帰らなければならない仕事があったために、車で(約2時間)津市まで二人を送って行きました。先生ともいろいろお話をする機会が持てたことがとても有意義でした。この時、朴先生から「三重大でスピーチしませんか?」という提案をいただき、私自身としてもこのような機会はまたとないということで、お受けしました。

また、7月に三重県が「海外から受け入れているインターンシップ学生(イタリアポローニャ大学生)を県内どこかへ案内して三重県のことを理解してもらう」という企画があり、それについても、三重県のグローバル大使を兼任している曹君が事前にこの企画について熊野はどうですか?と私に話を教えてくれました。私自身が熊野市観光協会の副会長をしていることもあり、前回のPVのことも、また市外からのお客様の誘致には常日頃何か機会があればと思っていたこともあり、県庁まで一緒に行ってもらって、学生の誘致活動をしました。おかげさまで、7月23日から24日に熊野へ来ていただくことが出来ました。

学生たちと一緒に、熊野市の瀨峡巡りを川船で楽しんできました。そして、地元の木本高校の学生と引率の先生、セントヨゼフ高校の学生も、一緒に楽しいひと時を過ごすことが出来ました。曹君の、行動力と人柄に改めて感心した事柄でした。



8月:8月例会は花火翌日の浜清掃活動に参加してくれました。今年は、花火が延期になったことから8月26日月曜日が花火大会で、翌朝が例会でした。この時は、曹君は大学の友人を二人(劉さんと、唐さん)援軍に連れてきてくれました。この二人も浜掃除ボランティアと一緒にしてくれました。熊野花火をゆっくり



見ていただくことが出来たととてもうれしく思いました。せっかく来ていただいたので、花火清掃の後、食事をとってからみなで紀和町の鉾山資料館へ行ったり、道の駅「くろべえの里」でお買い物をしたりしました。夜は、私の経営する宿で泊まってもらいました。

9月：毎年親クラブの新宮ロータリークラブと合同で月見例会を開催していますが、その日に曹君は出席してくれました。そして、親クラブである2640地区の方々とも仲良く歓談して途中スピーチもしてくれました。また、中国から持参してくれた老酒を全員に次いで回って返杯迄すべて受けていました。お酒が強いのにびっくりしました。そして、そのあとの2次会にはクラブのメンバーに引き連れられてカラオケやバーに行ったようです。遅い時間に、旅館まで会長が送って来てくれました。翌日は、会長がついでだからと、松阪まで送って行ってくれました。楽しいお月見例会でした。夜は、またお泊りしてもらいました。



10月：例会で、曹君のことについての卓話をお聞きする機会に恵まれました。生い立ちから、家族のこと、将来の夢まで時間が足りないのではと心配しながらでしたが、メンバー皆真剣に聞いていました。この日はあいにくの雨でしたが、曹君の卒論のテーマにもなっている熊野市の赤倉地区へ車で連れて行きました。そこで、民泊を経営している、観光協会会長の中平さんから、お話を聞いたりお土産にアマゴの干物と、新鮮な生アマゴをもらったりしました。民泊についてはとても興味深そうでしたので、私自身が経営している農家民泊(自宅)にその夜は泊まってもらいました。夫も、7月の瀬峡以来だったので、曹君からいろいろ話を聞いたりしながら楽しそうでした。夜は、遅くまでゲームをして遊びました。私自身もゲーム好きですが、曹君もゲームが楽しかったようで、翌朝もまたリベンジゲームしました。写真を撮って、桑名の卓話で使うと言っていました。そして、その後、伊賀上野の天神祭りに一緒に行くことになっていましたが、台風の影響で自宅近辺が土砂崩れや土石流など大変なことになったので、中止になりました。その時に、曹君は、何か手伝えることがあったら言ってください。と、とても親切な声をかけてくれました。その一言に、私はまた感動しました。感謝です。



11月:この月の地区大会は曹さんにとっても私たちクラブにとってもとても思い出深いものになりました。初日の昼食を皆でウナギ屋さんにていただきましたが、曹さんは日本のウナギ初体験でした。そして、その夜のウナギご飯は曹さんにみんな持たせて「寮にて皆さんで食べてね」と送り出しました。その翌日の「総天然色食堂」でのご飯やおかずもパックにたくさん詰め込んで大量だったので昨日同様「皆さんで食べてね」と会長が寮まで送って行ってくれました。帰ってから寮生皆で撮った写真を送ってくれました。コミュニケーションが取れて楽しかったと報告してくれました。



後半の連休には、卒業論文のための調査で学部の先輩2名と一緒に熊野へ1泊2日の予定で来られました。車で一緒に熊野とその周辺を周って案内をしました。丸山千枚田が今に至る苦勞を一緒に聞くことが出来ました。夜は、旅館に泊まっていただき皆で語り明かしたのがとても良い思い出となっています。先輩たちにとってもかわいがってもらっているのがよくわかりました。

12月:暮れは忘年家族例会に出席していただきました。クリスマスプレゼントを会員の皆さんからたくさんもらって持ちきれないほどの荷物になりましたが、また寮生と一緒に楽しんでもらえればと思いました。素直な明るい性格の曹さんは、熊野のロータリアンからもとても愛されています。夜間例会の折にはいつも、中国のお酒を持参してくれて、皆さんひとりひとりにふるまって回ります。とても強いお酒ですが、皆とても曹さんの心遣いに対して心から喜んでいきます。終了後は、いつも皆さんに連れて行ってもらう熊野の夜を楽しんでいました。

1月:新年例会はいつも、地域の市長、町長、県民局長、警察署長、ライオンズ会長等々に出席してもらっていますが、この時は曹さん皆の前で自己紹介と、中国への招待をしてくれました。そして、いつものように中国の強いお酒を持参してくれたので、私と一緒に紹介を兼ねて全テーブルを回りました。とても和やかで、また曹さんは明るいのですぐに皆さんと打ち解けて雰囲気の良い新年会になりました。お酒を飲んでいる話ばかりのようですが、皆さんとは進んでいろいろな話をしているので、一緒にいていつも心強いです。この時は珍しく、夜のお付き合いなしに宿へ一緒に帰ってきました。



2月：20日昼例会に出席、例によって汽車の時間が6時ころまででないので、一緒に例会後「熊野の行きたいところに行きましょう旅」をしました。木津呂に行きたいと言われましたが、時間的に大馬神社の方が近いということで、行き先を変え行ってきました。曹さんが、6月の例会終了後に私を手伝ってくれた、熊野の案内プロモーションビデオの中にも大馬神社が紹介されていましたので、とても興味深かったようです。坂上田村麻呂が、建立したといわれる大馬神社は、「熊野国総鎮守」といわれる由緒ある神社ですが、9年前の紀伊半島大水害で大きな被害を受けた場所でもありました。とても、奥深い森の中にある社で、この時は行きも帰りも誰とも会うことがありませんでした。その後、山を下りたところにある産田神社（イザナミノミコトが主祭神）と、花の窟神社に行き、途中でいつもの無人市場でミカンをたくさん買い込み、駅まで送って行きました。熊野にミカンのファンになってくれたようです。



2月に例年開催されているロータリー学友によるコンサートに曹さんと一緒に行く予定でしたが、私が行かれず曹さんは一人で名古屋のコンサート会場へ行きました。とても素晴らしい演奏会だったと報告を受けました。

3月：新型コロナウイルスの影響で、3月に予定していた曹さんの故郷への旅行が延期になりました。

来年はぜひクラブのみんなで中国に行きましょうと会長が挨拶をしました。夜例会の予定でしたがこの日は、コロナウィルス為例会とせず、自由参加で曹さんの送別会を企画してくれました。この時には、クラブのメンバーからいろいろな贈り物が届きました。中には、トイレトペーパーや、ティッシュペーパーは津市では今手に入らないでしょうと大袋で持参してくれた会員もいました。また、いつもお酒をいただいてありがとうございます、お酒を持ってきてくれた人、曹さんが好きな漫画「鋼錬」の全巻をプレゼントと言って持ってきてくれた人、ほかにもいろいろな贈り物で荷物が大変なことになりました。翌日は、汽車で帰る予定でしたが、あまりの荷物のため私が車で寮まで送っていくことにしました。

この日も、会合後に二次会と称して別の料理屋で再度集まった後、残った皆さんに曹さんを託して私は帰りましたが、会長が曹さんを送ってきてくれたのは深夜12時半を回っていました。この時曹さんは、酔いつぶれていて会長が何かと世話を焼いてくれました。（でも、会長の責任です）翌朝は、9時迄待ちましたが、食事もとれないほどで、味噌汁だけ取って車で送っていく2時間の道中寝てもらおうことにしました。後で聞きましたところ、記憶がなくなったのが初体験だったそうです。急性アルコール中毒にならずによかったと、ほっとしました。帰る前に、熊野のみかんをケースで買ってお土

産にして(車なのでいくら多くてもよいから)、津駅に停めた自転車を車に積み込み大学の寮に送り届けました。しかし、この送別会は、いつもの例会より出席率が良く、会長が凹んでいました。いかに、曹さんが皆に愛されているかが証明されたようで、カウンセラーとしてとてもうれしく思いました。

熊野という辺境の地へ米山奨学生として来てくれた曹さんとの縁はこれからも末永く続いていくと思っています。コロナウィルスが落ち着いてきたら、皆と一緒に中国に行くのも今からとても楽しみです。

米山記念奨学会のおかげで得られた奨学生との貴重な経験は人生の宝物になったと思っています。最後に、米山梅吉氏の素晴らしい遺産に心より敬意を表したいと思います。ありがとうございました。



熊野ロータリークラブで曹君の送別会